

(別紙)

### 自然風景の区分（6地域・34地区）

- 1 東山地域  
比叡山地区（1） 修学院地区（2） 大文字山地区（3） 東山地区（4）  
稲荷山地区（5）
- 2 山科地域  
山科地区（6） 音羽山地区（7） 醍醐地区（8）
- 3 北山南部地域  
八瀬地区（9） 岩倉地区（10） 松ヶ崎地区（11） 上賀茂地区（12） 静市地区（13）  
西賀茂地区（14） 衣笠地区（15）
- 4 北山地域  
大原地区（16） 古知谷地区（17） 静原地区（18） 鞍馬地区（19）  
花背峠地区（20） 雲ヶ畑地区（21） 氷室地区（22） 沢山地区（23）  
杉坂・中川地区（24） 大森地区（25）
- 5 西山地域  
高雄地区（26） 清滝地区（27） 愛宕山地区（28） 嵯峨地区（29） 嵐山地区（30）  
松尾地区（31）
- 6 大枝・大原野地域  
大枝地区（32） 小塩山地区（33） 善峰寺地区（34）

## 地域ごとの特質

### 1 東山地域

#### (1) 概況

東山地域は、比叡山から稲荷山に至る地域で、いわゆる旧市街地に極めて近接しており、更に社寺仏閣と一体となった山並みを構成要素として、歴史的な意義を有する地域で、古くから東山三十六峰として知られている地域である。

##### ア 地形

南部がなだらかな連峰を形成しているのに対し、北部では細かな山はだを有し、急傾斜面も多く存在する地形となっている。

##### イ 地質・地層

この地域は主に中生層からなり、比叡山から大文字にかけては花崗岩を基本とし、そこから産する山砂は白川砂として知られてきた。それより南では粘板岩類が多く見られ、稲荷山に至って堆積岩が主体となる大阪層群を基盤とする。

##### ウ 植生

地域全体は、旧来アカマツ林であったが、現況では放置された落葉広葉樹林に拡大しつつある常緑広葉樹林及びスギ植栽林などが主となり、これらの植生がモザイク状に混在した景観を作り出している。

##### エ その他

この地域は、歴史的に重要な旧跡が多く、それらの社寺借景となっていることにより観光的意義も大きい。また、全域で眺望、散策などの市民利用がなされ、特に比叡山、大文字山、將軍塚、稲荷山には多数の来訪者がある。

なお、この地域南部東側は、山科盆地からの自然風景として位置付けられる。

#### (2) 自然風景の特徴

##### 比叡山地区（1）

比叡山の山容は、優峻にして古歌には「都の富士」とたたえられ、平安京と共に長く歴史の舞台に知られる名山である。市街地の多くの箇所から眺望され、東山地域の自然風景の重要な要素となっている。特に円通寺の借景としての比叡山の眺望はよく知られている。

安定した落葉広葉樹林にモミ等の針葉樹を交え、その林床に多様な山野草が多く見られる。

##### 修学院地区（2）

比叡山の山麓部に位置する地区であり、曼殊院などの社寺や修学院離宮がある。歴史的景観としてツツジ類が多く、風通しの良いアカマツ林の景観が特徴であったが、アカマツは減少傾向にあり、落葉広葉樹が発達しつつあるところが多い。山すそには発達したアベマキ・コナラ等の落葉広葉樹林がある。

### 大文字山地区（３）

大文字山は、五山の送り火の一つとして知られており、山麓部には慈照寺（銀閣寺）、法然寺、永観堂、南禅寺等の社寺がある。

落葉樹、常緑樹、針葉樹がモザイク状にある京都の特徴的な自然風景であり、アカマツ林が中心であるが、衰退しつつある林分が多い。大文字山には他の地域ではあまり見られない発達したイヌシデ（落葉広葉樹）林があり、山すそにはシイ等の常緑広葉樹林が広がっている。

### 東山地区（４）

東山の山並みの中心となる地区で、京都を代表とする景勝地の一つである。山すそに知恩院、八坂神社、清水寺等の社寺や桜の名所として知られる円山公園がある。

尾根筋近くにはアカマツがまだ多いが、シイ林の大きな塊がアカマツ林に入り込み、更に拡大傾向にある。山すそには、ムクノキ、エノキなど大木になる種が数多く見られる。

### 稲荷山地区（５）

東山地域の南部に位置する地区で、伏見稲荷大社を中心に山全体が信仰の対象になっている稲荷山を初めとする山並みは、京都一周トレイル東山コースの一部であり、ハイキングコースとしても市民に親しまれている。

全体に成熟したコナラ等の落葉広葉樹林や植林地が見られ、自然の森の美しさが特徴である。なお、山すその緩傾斜地にはモウソウチクの林が見られる。

## （３）自然風景の保全の重点

この地域は、京都の町の中心地から特に良く眺望される地域である。中でも、鴨川から見る東山は、京都を代表する自然風景の一つであり、軟らかな稜線が醸し出す雰囲気は、京都に特有の景観を形作っていることから、特に稜線に配慮した細部にわたる保全に重点を置く。

## ２ 山科地域

### （１）概況

山科地域は、山科の市街地を取り囲むことで小盆地を形成している。東山に連なる安祥寺山、音羽山、行者ヶ森、醍醐山を主要な構成要素として、山科盆地及び醍醐・石田などからよく眺望される地域である。

#### ア 地形

北部は、標高は低いが入り組んだ谷を持ち、平坦地の少ない傾斜地形である。南部は、急勾配の山はだを有していることから、大きな谷筋地形は少なく、小規模な侵蝕谷が多い。

#### イ 地質・地層

中生生層の堆積岩類を主とした地質基盤を持つが、風化の程度の差によって地形

土壌環境は多様である。なお、山すその一部には大阪層群や沖積層など比較的新しい堆積層が分布する。

#### ウ 植生

アカマツを主とした針葉樹林が多く見られる。北部にはスギ植栽林、一部の山腹下半部では、落葉広葉樹林や常緑広葉樹林も見られる。

#### エ その他

醍醐山，行者ヶ森，音羽山は，ハイキングコースとして市民に多く利用されている。また，「醍醐の桜」に特に名が高く，上醍醐の「醍醐水」は銘水として知られ観光客も多い。

## (2) 自然風景の特徴

### 山科地区（6）

東山に連なる安祥寺山などの山々と毘沙門堂などの社寺と一体となった山並みを成している。疏水沿いのソメイヨシノの並木は大きな樹冠が水辺に掛かり，背後の山並みの緑を背景として，優れた自然風景として親しまれている。

四宮藤尾付近には，比較的まとまったクヌギ，コナラ等の落葉広葉樹林が谷あい部を中心に見られる。

安祥寺山一帯は南斜面にアカマツ林，北斜面にスギ植栽林がある。このスギ林は，比較的手入れされており，樹林景観としてのまとまりがある。

毘沙門堂から谷を入った後山階陵への道は森の中の小溪谷に沿って，イロハモミジなどの紅葉樹種が多い。

### 音羽山地区（7）

鉄道や幹線道路から，急峻な音羽山の山並みが良く眺望され，牛尾観音に至る音羽川の谷筋に沿ってハイキングコースがある。山腹中上部から尾根筋にかけてアカマツ林が見られ，山腹下部にはコナラなどの落葉広葉樹林という景観が歴史的なものと考えられるが，山腹下部，谷筋には，昭和30年代に植栽されたスギ林が混じり，一方では，広範囲にわたりアカマツ林が減少しつつあるのが現況である。

水分環境が良好な急峻な斜面の一部では，クズなどのツル性の植物によって荒廃した植生景観を呈するところが目立つ。

### 醍醐地区（8）

醍醐山を中心とする山並みが，山麓部の一言寺，三宝院，醍醐寺等と一体となり自然風景を成している。

緩傾斜の丘陵地帯は，人為的に維持管理されてきたまとまった竹林又はアカマツ林であったが，現在は常緑広葉樹やクズなどが入り込んで雑然とした植生環境となっており，これらの地域では，宅地化が進みつつある。

醍醐山一帯の山腹斜面は，本来，モミを多く含む発達した針広混交林を形成する肥沃な山地であるが，近年はアカマツ林が主となり，これにスギ植栽林が加わる植生景観

を呈してきた。しかし、現在では、アカマツの枯損木が目立ち、山麓<sup>ろく</sup>の谷筋を中心にシイを主とする常緑広葉樹林が発達しつつある。

### (3) 自然風景の保全の重点

この地域は、山麓部の住宅地と背後の山並みが一体的な遠景として、鉄道や幹線道路から眺望されることが多く、住宅地に近接した部分の緑地と自然地形の保全に重点を置く。

## 3 北山南部地域

### (1) 概況

この地域は、京都盆地の北に位置する山並みのうち、市街地に接している地域である。衣笠山、松ヶ崎などの丘陵部、低山地で構成されたいわゆる曲線美地形により、社寺の借景とされている山並みも多く、岩倉では変化に富んだ山々が小盆地を取り囲み、更に、八瀬、静市では、狭い谷あい<sup>あ</sup>が際立つなど、異なった特質の自然風景が市街地の景観と一体となって、京都の北の風景を形成している。

#### ア 地形

松ヶ崎の「妙・法」に代表されるような曲線構造を持つ丘陵部、低山地を前面に持ち、その背後には比較的急峻<sup>しゅん</sup>な斜面、狭い谷あいを有する壮年期地形の北山連峰が続いている。この二つの異なった地形の山並みに挟まれた形で、岩倉、静市の小盆地がある。

#### イ 地質・地層

主に中生層の堆積岩類<sup>たい</sup>からなるが、構成する基盤岩のうち、比較的堅いチャートが浸食を受けずに残っているところでは、松ヶ崎などに見られる曲線美を持つ丘陵地を生み出している。

その他の山地は砂岩などからなり、風化を受けて好適な森林土壌を形成しているところが多い。

#### ウ 植生

柴山として経営されてきた落葉低木の多いアカマツ林を主とし、山すそ部には落葉広葉樹林やスギ植栽林がみられる。

#### エ その他

市街地に面した山すそでは散策利用が多く、丘陵地帯には眺望型、運動型のハイキングコースが多くある。

大原街道、鞍馬街道、周山街道などは主要道として昔からよく知られており、現在も交通量が多く、八瀬、上賀茂神社、金閣寺、鷹ヶ峰、円通寺などには観光客が集まる。

### (2) 自然風景の特徴

#### 八瀬地区(9)

八瀬川の溪流と溪谷沿いのイロハモミジの紅葉からなる自然風景はよく知られており、紅葉の名所と荒廃森林が隣合わせとなっている。

植生の中心は、アベマキ、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林であり、かつては炭焼きも行われていた薪炭林の自然風景である。部分的にクズ草地、ネザサ群落など荒廃した印象を与える植生がある。

#### 岩倉地区 (10)

岩倉盆地を取り囲む山並みであり、山麓部には岩倉実相院、三宅八幡宮等がある。以前は全体的に里山としてのアカマツ林が主体の自然風景であったが、現在は山すそにアベマキ等の落葉広葉樹林がある。

実相院裏のシイ林は、谷筋を山腹に向かって伸びており、岩倉では際立った自然の豊かさを感じさせる。

#### 松ヶ崎地区 (11)

五山送り火の一つである「妙・法」や京都の自然資源の中でも極めて重要な深泥池があり、宝ヶ池公園と共に良好な自然環境を形成している。

全域にアカマツ林が広がるが、松ヶ崎大黒天一帯に見られるシイ等の常緑広葉樹林は、徐々に範囲を広げつつある。

#### 上賀茂地区 (12)

上賀茂神社の御神体として古くから信仰の山となっている<sup>こうやま</sup>神山に見られるようななだらかな山並みを特徴とする地区である。

山腹にまとまった規模のアベマキ林が散在し、山すそのところどころには、規模の小さな竹林がある。かつての柴山のアカマツは枯れているところも多いが、<sup>こうやま</sup>神山頂上付近などでは、まとまったアカマツ林がある。

#### 静市地区 (13)

古くは谷あいには散在する小集落と一体となった風景であったが、山すその竹林やなだらかな斜面では宅地化が進み、住宅地の周囲をなす山並みの風景に変化しつつある。スギの植栽林に尾根筋のアカマツ林等、北山地域へと続く林業地帯の南端に位置する自然風景となっている。

#### 西賀茂地区 (14)

山麓<sup>ろく</sup>に正伝寺、西方寺があり、五山送り火の一つとして知られる船山は、柴山として利用されていたアカマツ林が中心である。市街地側から一山越すと、よく手入れされたスギ林が広がる林業地帯となる。また、船山への登山や東海自然歩道のハイキング等によく利用されている。

#### 衣笠地区 (15)

五山送り火の一つ「左大文字」、衣笠山、竜安寺山、白砂山等の山並みの山麓部<sup>ろく</sup>には金閣寺を初め多くの社寺がある。山の曲線と平安時代からの歴史を持つ「山のは(端)」の松林が特徴である。尾根筋には安定したアカマツ林、山腹や谷あいには植

栽林が見られる。山すその落葉広葉樹林はかつての薪炭林で、現在は常緑樹が入り込んでいる。

### (3) 自然風景の保全の重点

この地域は、曲線美をもつ丘陵地が特徴であり、社寺借景となっているところも多いことから、その曲線美に影響を与えないことに重点を置く。

## 4 北山地域

### (1) 概況

周山街道、鞍馬街道、大原街道の3本の街道筋を持ち、古い伝統を持つ山間集落がいくつも残るこの地域は、市街地から広く遠望される山地を構成し、旧来、林業により保全されてきた地域である。

この地域は私有地が多く、スギを主とした植栽林が多い。植林地は一般によく手入れされ、高い経済的価値を持つ。

気候的には、日本の太平洋側と日本海側の境界領域に位置し、潜在的に生物相の多様性が高い地域である。

#### ア 地形

平坦部が狭小で、山と谷あい、および山中の集落地からなる典型的な山間地域となっている。勾配が急峻なところが多いが、なだらかな勾配の山が集落地を取り囲んでいるところもある。

#### イ 地質・地層

中生層の堆積岩類が基盤となっており、風化の進み具合や岩の種類、組成の変化によって自然立地条件の多様性が見られる。

#### ウ 植生

山腹にはスギ、ヒノキの植栽林が大部分で、尾根筋にアカマツ林をもつところが多い。一部には、落葉広葉樹林、針葉樹林が一定のまとまりを形成している箇所もある。

#### エ その他

この地域では、わが国を代表する景勝地である大原、夏の風物詩として有名な貴船川べりの料理旅館が出す川床は、よく知られている。

また、花背峠、鞍馬、氷室などには市民がよく利用する水くみ場があり。ハイキングのルートも数多く存在し、雲ヶ畑、静原のキャンプ場の利用者が年々増加している。

### (2) 自然風景の特徴

#### 大原地区 (16)

田園地帯の古い集落と社寺等を取り巻く山並みは、歴史的な景観を感じさせる。スギ、ヒノキ植栽林はよく手入れされているところが多く、美林という印象を与える。

柴山として利用されてきたアカマツ林は、植栽林に切り替えられたところが多いが、植林地に向かないところではアカマツ林が残っている。

このような林分は、薪炭林としてあまり利用されなくなったためにツツジ類等の低木種の大量枯損が生じている。コナラ等の落葉広葉樹林もかなりの面積を占めており、山腹斜面上部では、これに天然スギを交える針広混交林となるところもある。

#### 古知谷地区 (17)

大原地区の北に位置し、大原街道を通じて北端を滋賀県と接する古知谷地区の山並みは、よく手入れされているスギ、ヒノキ植栽林が大部分を占め、尾根筋近くには一部アカマツ林があるが、大径木は少なく、ツツジ類等の低木類が多い。阿弥陀寺にはカエデ類が多く、タカオカエデの巨樹（京都市指定天然記念物）があり、歴史を感じさせる落ち着いたたずまいを持つ森厳性の高い自然風景を呈する。

#### 静原地区 (18)

天ヶ岳を頂点に静原の集落を取り囲む地区である。静原は、周囲を山並みに囲まれた山里と呼ぶにふさわしい雰囲気がある。

周辺の林分は、スギ、ヒノキ植栽林が多く、比較的よく手入れされている。また、天ヶ岳周辺の落葉広葉樹林は自然性が高い。

#### 鞍馬地区 (19)

鞍馬山は信仰・修行の山であり、また鞍馬山霊宝殿を拠点とした自然観察の場としても知られている。貴船山は貴船神社の御神体であり、林業の山としても重要である。鞍馬寺の境内林にはスギ、ツガ、ウラジロガシなどの巨木が見られるほか、既に京都近辺では見られなくなったアカガシなどがあり、京都の自然の原生的な環境を残した貴重な箇所である。また、由岐神社の社叢はスギ、カゴノキの巨樹（京都市指定天然記念物）によって森厳性の高い自然風景を成しており、鞍馬山中には竹伐り会の用いるモウソウチク林がある。社叢、境内林以外はスギの植林地がほとんどで尾根筋にはアカマツ林があり、落葉広葉樹林は少ない。

貴船には溪谷に沿って発達した落葉広葉樹林があり、樹木の生育環境としても好適である。貴船川の水辺植生の中にはキブネダイオウなど地域性の豊かな草本類が生育している。

#### 花背峠地区 (20)

花背峠に連なる山並みは、手入れされた植林地が続き、市街地からもよく眺望され、北山を散策に訪れる人々の多くが、この峠を越えて行く。自然風景の北端を成し北山の自然風景の重要なポイントである。

#### 雲ヶ畑地区 (21)

雲ヶ畑の集落を中心に古来から林業が盛んなところで、周囲はよく手入れされた植林地となっている。春はシャクナゲが咲き、夏の新緑、秋の紅葉等美しい風景が見られる。

集落から離れた医王沢、棧敷ヶ岳などに入ると、多種多様な植生があり、落葉広葉樹林の中に多様な低木類が見られる。

#### 氷室地区 (22)

古い峠道を越え、山を登り詰めた後に開ける小さな田園集落である氷室を中心とした地区である。西賀茂や雲ヶ畑に続くハイキング道があり、周辺は手入れされた植林地となっている。

#### 沢山地区 (23)

北山地域<sup>北山地域</sup>の南に位置し、東海自然歩道<sup>東海自然歩道</sup>を利用し、散策に訪れる人々も見受けられる。植林地が多いが、尾根筋や沢ノ池<sup>沢ノ池</sup>周辺はまとまったアカマツ林で、土壌条件から見ても比較的安定した自然風景を形成している。

#### 杉坂・中川地区 (24)

中川は高雄の北、周辺街道に沿って開かれた山間の集落で北山丸太の産地として非常に有名である。周囲の山並みのほとんどは手入れの行き届いた北山杉の美林<sup>美林</sup>（植栽林）で、尾根筋にはアカマツ林が作られている。半国高山などの稜線部<sup>稜線部</sup>は市街地からもよく眺望される。

#### 大森地区 (25)

周山街道から京北町へと通じる地区であり、北山を散策するハイカーや周山街道を通行する人々も多く、特に大森キャンプ場の市民利用が高い。

また、北山杉の産地として知られており、植栽林が多く見られる。

### (3) 自然風景の保全の重点

この地域は、市街地の多くの箇所から眺望されるため、稜線部分の保全が特に重要であり、自然風景の連続性を保全することに重点を置く。

## 5 西山地域

### (1) 概況

この地域は、個性的で非常に優れた性格を有する自然風景が集積している地域である。愛宕山は、周囲の山からひとときわ高く見え、この地域の自然風景の中心的な役割を果たしている。また、高雄では、スギの深い緑の中に高雄楓<sup>高雄楓</sup>（イロハモミジ）の紅葉がよく映え、神護寺、高山寺などを中心とした社寺境内林の自然景観と周囲のよく手入れされた植栽林景観が自然風景の骨格を作り上げている。

更に、嵯峨では、嵯峨野周辺の小倉山を初めとしたなだらかな山並みが、鳥居本の集落や、田園風景と一体となった自然風景を形成し、嵐山では、保津川と一体となった緑の山の曲線が自然風景の重要な構成要素となっている。

#### ア 地形

清滝から愛宕山頂までは標高差が約700メートルあり、急峻な勾配<sup>急峻な勾配</sup>を有する地形であるが、大部分は海拔高300～400メートルの低山から成り、市街地に面

する小倉山などは特に美しい曲線形状を有している。また、松尾地区は更に低い山地が西に向かって徐々に標高を加える地形的特徴を持っている。

嵯峨地区では、風化帯の浸食過程で生じた複雑な谷地形がみられる。

#### イ 地質・地層

高雄や北嵯峨は、全国的に知られた鳴滝砥石を生み出す頁岩<sup>けつ</sup>が分布している。この頁岩<sup>けつ</sup>は中古生層の堆積岩類<sup>たい</sup>の一部で、この他に砂岩、粘板岩などが見られ、北山地域などと共通した地質環境を構成している。

#### ウ 植生

市街地に面してアカマツ林、その背後ではスギ植栽林となっているが、社寺境内林には常緑広葉樹林が見られる。嵯峨野などの一部の沖積層では竹林となっている。

#### エ その他

古くから風光明媚な景勝地として、又はその後背地として知られてきたところが多く、そのすべてが、我が国を代表する第一級の景勝地である。

## (2) 自然風景の特徴

### 高雄地区 (26)

地形的に変化に富んだ高雄地域は、スギの深い緑の中に高雄楓<sup>かえで</sup>（イロハモミジ）の紅葉がよく映え、神護寺、高山寺などを中心とした社寺境内林の自然景観と、周囲のよく手入れされた植栽林景観とが調和した風景となっている。

道に面した西明寺の裏山には新しいイロハモミジの造林地があるが、全体的には古木が多く見られる。

### 鳴滝地区 (27)

地区内を流れる清滝川は、清流でここでの水遊びは古来、京都の夏の風物詩の一つとなってきた。間近に周辺の山々が迫り、谷筋の料理旅館街周辺には桜、紅葉が見られ、古木が多く落ち着いた雰囲気<sup>ふんいき</sup>の自然風景となっている。地区の大部分はスギの植栽林が占めている。

### 愛宕山地区 (28)

愛宕山は清滝の背後にあり、周囲の山からひとときわ高く見える。また、火伏せの神を祭る神山<sup>しんざん</sup>として畏敬され、この地域を代表する山として人々に親しまれている。この地区は水尾の集落を含み、大部分がスギ植栽林となっているが、紅葉木とそれを取り囲むスギの大木が特徴的である。また、登山道のある尾根道は落葉低木の多いアカマツ林となっており、季節感のある自然風景を構成している。

### 嵯峨地区 (29)

嵯峨野周辺の小倉山や五山の送り火の一つである鳥居形等のなだらかな山並みが、鳥居本などの集落や田園風景と一体になって京の雅を代表する「野の風景」を成している。山麓部<sup>ろく</sup>一体は、古くは隠棲の地として知られ、竹林の中に物さびた風情の中の寺院や庵居跡などが点在している。

嵯峨の自然は松林と竹林との対比にあるともいえる。鳥居本の背後のアカマツ林は古木を含むが、枯損木の少ない美林であり、山すその一部はモウソウチクの林が見られる。谷あいにはスギ植栽林もあるが、他の地区と比べ、規模が小さくあまり目立たない。

#### 嵐山地区 (30)

嵐山は落葉広葉樹を多く含むアカマツ林で、桜、新緑、紅葉、<sup>りょう</sup>稜線の松の景観が嵐山の自然風景を生み出し、保津川と一体となった山の曲線が自然風景の中心をなしているなど、我が国を代表する景勝地となっている。

現況はアカマツ、ヤマザクラが減少傾向にあり、サカキ、ヒサカキなど常緑広葉樹が盛んに生育している。

#### 松尾地区 (31)

桂川と急峻な西山の山並みが特徴的な風景であり、山麓部には、松尾神社、西芳寺、鈴虫寺等の社寺が数多く見られる。

松尾大社社叢は台風被害などによって大径木は多くはないが、古いシイ林となっておりカギカズラ（京都市指定天然記念物）が生育している。西芳寺の裏はスギを主とした植栽林とアカマツ林から成る。

### (3) 自然風景の保全の重点

この地域は、我が国の第一級の景勝地であり、借景的な意義が特に大きいことから、それぞれの観光ポイントのイメージを構成する特徴的な自然風景の保全に重点を置く。

## 6 大枝大原野地域

### (1) 概況

この地域は、大枝地区、小塩山地区、善峰寺地区の3地区に分けられ、それぞれ次のような特質を有している。

大枝地区は、竹林地帯の丘陵で、すそ野の柿畑と一体となって、静かで落ち着いたたたずまいの自然風景を形成している。

小塩山地区は、小塩山の東斜面及び山頂部を中心とした一帯であり、<sup>こう</sup>勾配の急な斜面が多く、山麓部に大原野神社、勝持寺があり、すそ野には柿畑が広がっている。善峰寺地区と共に、京都の西南部の緑豊かな山並みとして、市街地から特によく眺望される。

善峰寺地区は、小塩山の南斜面を中心とした一帯であり、<sup>こう</sup>勾配の急な斜面が、それにつながる大原野の田園地帯に接したなだらかな斜面の背景として自然風景を形成している。

#### ア 地形

丘陵地帯の大枝地区と標高が約640メートルの小塩山を中心とした小塩山地区・善峰寺地区の二つの性格が異なった地形に別れる。

丘陵地帯には、起伏の少ない谷筋に小溪流が存する。

小塩山を中心とした地形は、緩傾斜の洛西の台地を徐々にせり上がった先に南北に広がる山地が、壁のように立ちはだかった状態となっている。

#### イ 地質・地層

大枝地区の大部分と小塩山地区の山すそ緩傾斜地は大阪層群を基盤とする比較的軟質の堆積物からなる。このうち、粘性の高い土壌条件下では、竹林が経営され、通気性の高い土壌条件下では柿畑が経営されてきた。一方、小塩山の山地部分や善峰寺地区は中古生層の堅い岩盤を持つ堆積物を基盤とし、風化が進んだ良好な土壌条件となるところでは、発達した樹林を形成している。

#### ウ 植生

大枝地区のなだらかな丘陵地帯ではモウソウチクの林を基本とし、部分的に落葉広葉樹林、アカマツ林を含んでいる。

小塩山では、山麓は柿畑となるが、山地に入ると、アカマツ林やスギ、ヒノキ林が主体となり、一部に落葉広葉樹林を交える樹林景観となる。善峰寺地区では、さらに植林地と落葉広葉樹林面積が増え、樹林もよく発達している。特に自然性の高いモミ林や景観的価値の高いカエデ林も一部では見られる。

#### エ その他

この地域は、間伐、伐採等の林業施策が行われているが、一方では勝持寺（花の寺）、善峰寺などへの観光客や、ハイキング客の増加など、洛西の観光地、自然散策地としてのウェイトが近年高くなりつつある。

### (2) 自然風景の特徴

#### 大枝地区 (32)

松尾に連なる山々の山麓には、竹林地帯の丘陵が広がり、所々に落葉広葉樹林、アカマツ林があり、起伏の少ない谷筋は小溪流が流れている。竹を生産するために手入れされた美しい竹林が多いが、一部には竹材採取用の密度の高い竹林や放置された竹林がある。

#### 小塩山地区 (33)

小塩山の山麓部には大原野神社、勝持寺（花の寺）、金蔵寺等があり、更に山すそにはなだらかな斜面に田園風景が広がっている。

小塩山の山頂は常緑広葉樹の侵入が比較的少なく、安定した落葉広葉樹林となっており、季節感のある自然風景を構成している。また、山頂の淳和天皇陵付近ではヒノキの植栽林が広がっている。

山頂から西側は施策されたスギ、アカマツ林があり、手入れされたスギ林、枯損木の少ないアカマツ林など林業地としての景観は、美林という自然風景の印象を与える。

中腹にカエデ類の多い紅葉の美しい林分があり、山麓は柿畑となるが傾斜のやや強い山すそにはクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林が見られる。金蔵寺境内林のイロハ

モミジは大径木が多くあって、見ごたえのある自然風景を構成している。

#### 善峰寺地区 (34)

小塩山の南につづく釈迦岳の中腹には善峰寺があり、山すそのなだらかな斜面には竹林が広がっている。善峰寺は紅葉、新緑の季節には数多くの観光客が訪れ、境内から大原野周辺が一望される。参道には昔に植栽されて大きく育ったスギの美林が続き、更に門前に近づくとまとまりのあるイロハモミジ林がある。

境内林の一部には、落葉広葉樹を含む自然性の高いモミ林があり、谷筋(灰谷など)、山麓には薪炭林として利用されてきた、発達したクヌギ、アベマキを主とする落葉広葉樹林がある。

灰谷などの谷筋の大規模で発達した落葉広葉樹林は、多様な種を含み、大原野の自然の豊かさを代表しており、尾根筋や山腹斜面ではモミを多く含む針広混交林が本来の大原野の自然風景といえる。

### (3) 自然風景の保全の重点

この地域は、山麓部の豊かな樹林と田園とが調和した姿が特徴であることから、田園地帯の背景としての自然風景の保全に重点を置く。